

# 令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立淀橋第四小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

授業作り	重 点	○児童が「学ぶ喜び」「知る楽しさ」を感じられる授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業の充実を図る。
環境作り		○一人1台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・協働的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名の読み方については、概ね理解している。筆順や「トメ」「ハネ」等を正確に理解していない児童が多数見られるので、正確に書けるよう、繰り返し練習し、定着を図る。</li> <li>知らない言葉を正確に理解できるように、国語の教材文や読み聞かせ、読書活動を推進し語彙量を増やし、日常生活の中で使いこなせるようにする。</li> <li>1から10の数は捉えられる。今後、ものともを対応させることで個数を比べたり、個数や順序を正しく数えたり、表したりすることなどを指導し、整数の意味について理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①語句や語句のまとまりを意識した音読活動</li> <li>②読書環境の充実と学校図書館の活用</li> <li>③デジタルドリルやプリントを活用した反復学習</li> <li>④具体物、半具体物の活用</li> <li>⑤ICT機器を活用した学習</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の平仮名・片仮名・漢字について、概ね読み書きはできているが、「しょつき」等の拗音と発音が混合する単語の間違いや句点のうち忘れが多く、定着を図る。</li> <li>文章に書かれていることを正しく読み取ることができる。今後は登場人物の気持ちを叙述に沿って想像したり、内容に対する自分の考えを言語化したりする指導を行う。</li> <li>加減計算は概ね理解できているが、問題文から立式をするのに、内容を正しく読み取る力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①音読の習慣化、読書環境の充実</li> <li>②書く活動の充実</li> <li>③デジタルドリルの活用</li> <li>④具体物を取り入れた学習や文章問題の図化</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取りに多少課題が残る。</li> <li>文学的文章、説明的文章ともに、細部まで正確に内容を読み取れず、大事な言葉を追って読むことに個人差が見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した直後でのミニテストは正解率が高いため、今まで学習した漢字を家庭学習やデジタルドリルを活用し何度も学習していく。</li> <li>文章の読み違いがないように、各場面・段落ごとに大事な言葉を抑えながら学習を進めてい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリルの活用</li> <li>②音読の習慣化</li> <li>③具体物を取り入れた学習</li> <li>④計算問題の反復練習</li> </ul>

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水のかさを正しく読み取ることを、苦手とする傾向が見られる。</li> <li>・繰り下がりのあるひき算に誤答が多い。また九九の習熟に個人差が見られる。</li> </ul>	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を取り入れて、水のかさの概念を理解するとともにデジタルドリルを活用し、学習を習熟する。</li> <li>・デジタルドリルを活用し、減法の場面の問題にたくさん触れ、学習を進めていく。</li> <li>・日々の学習場面で反復練習だけでなく、短時間でも継続して取り組める活動を設定し、学習の習熟を図っていく必要がある。</li> </ul>	
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に行う漢字のミニテストでは正答率が低い。授業内で板書を写す際、平仮名に変えてノートに書く児童もいる。</li> <li>・キーセンテンスやキーワードを読み取り、叙述をもとに理由を考えることができるようになってきた。</li> <li>・毎回算数の授業内で同じ問題を何度も解く「タイムチャレンジ」に取り組んでおり、四則計算は身に付いている。乗数が2桁のかけ算の筆算は、忘れてしまう児童がいるため、スパイラル的に学習する必要がある。</li> <li>・文章問題から立式することに課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字は、デジタルドリルを活用したり、授業内で既習漢字を日常的に使ったりして、繰り返し既習漢字に触れる機会を作る。また、語彙も少ないため日常的に国語辞典を使う習慣を付ける。</li> <li>・教科書の叙述をもとに理由を考える活動を取り入れキーセンテンスやキーワードを読み取る指導を行う。</li> <li>・同じ問題を何度も解くことで計算問題の習熟を図っている。乗数が2桁のかけ算の筆算は、スパイラル的に学習していく必要がある。デジタルドリルを活用し、学習の定着を図る。</li> <li>・文章問題から立式する際に、数直線図を取り入れるだけでなく、それを手がかりにして立式できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリルの活用</li> <li>②教科書の音読</li> <li>③朝読書の推進</li> <li>④計算問題の反復練習</li> <li>⑤半具体物を取り入れた学習</li> </ul>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書くときに、「何を書けばいいかわからない」と悩んでしまい、手が止まる児童が多く見られる。</li> <li>・内容を正確に読み取る力と言葉の理解が乏しい児童が多い。</li> <li>・小数のかけ算、わり算の誤答が多く、苦手意識も強く見られる。</li> <li>・正しくめもりを読むことや教具の使い方を間違ってしまうことから正しく測定ができない児童が多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル文を作成し、それを基に文章を書くことを積み重ねて書く力を身に付ける。</li> <li>・言葉の理解が弱いので、語彙を増やすために、「言葉日記」という意味調べの取組を継続して行う。また、内容を正確に読み取る力を身に付けさせるために、中心となる言葉や文章と一緒に押さえたり、要約させたりして大事なところに気付かせる。読み聞かせも継続し、物語や説明する文章を想像する力を養う。</li> <li>・正確に計算をしたり、正しく位取りをしたりするために、繰り返し問題を解いて習熟を図る。</li> <li>・分度器やコンパスの使い方を忘れないよう、定期的に測定の問題を解き、同じ問題を繰り返すことで習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国語辞典、漢字辞典の活用</li> <li>②「言葉日記」を継続</li> <li>③読書活動の推進</li> <li>④デジタルドリルの活用</li> <li>⑤測定に関する問題の反復練習</li> </ul>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読み取る際に、各段落の役割や内容を読み取る力に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文は文章を読み取るだけでなく、中心となる言葉や接続詞に注目させる。また、表やグラフが何を表しているかを読み取る練習を行い、事実や根拠を基に論述する力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①表やグラフの読み取り</li> <li>②教科書の音読</li> <li>③デジタルドリルの活用</li> <li>④文章問題・計算問題の反復練習</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・小数の割り算や体積の単位換算、分数の通分・約分に課題が見られる。</li><li>・文章問題から立式することに課題が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・デジタルドリルやプリント学習を併用して問題に繰り返し取り組み、定着を図る。</li><li>・問題文に着目し、数量の関係を図に表しながら立式する練習に繰り返し取り組み、習熟を図る。</li></ul>	
--	--	---	--

